



special feature

特集座談会

地域に学ぶ「地域研修」とは！



econ. no.052

Hokkai-Gakuen University Faculty of Economics

～ゼミの数だけテーマあり！～

ゼミごとにテーマを持ってフィールドワークをしながら、その地域が抱える課題に取り組む「地域研修」。現地での体験の中で、課題解決や改善につながる方法を考えていきます。その内容はゼミによってさまざま。3つのゼミのメンバーに、各ゼミでの取り組みについて聞いてみました。

[2025年6月24日に実施]



特集座談会の様子

ゼミによって異なるテーマや準備の仕方

大貝 ゼミと連動して行われる地域研修は、所属するゼミによって内容や方法が異なります。それぞれのゼミではどのように取り組んでいるのか、まず、訪問先や研究テーマはどのように決めていますか？

奥田 上園ゼミは、2年生は豊富町と決まっています。3年生ではみんなで話し合っていて、去年は岩内町に行きました。私の班は名産の「らいでんメロン」をどう販売していくかという第3次産業と、外国人労働者の問題をテーマにしました。

嶋田 エネルギー経済学のゼミなので、豊富町では風力発電の現場で再生可能エネルギーと町との共生について学びました。3年生の今年は、自分が一から企画して浦幌町へ行きます。

山林 農業経済学の宮入ゼミは、2・3年生合同で行っていて、基本的に3年生が訪問先を決めるんです。今年は農業の複合経営をテーマに留萌地域を訪れます。

武田 去年は足寄町を訪問して、放牧酪農と一般酪農の違いを比較しながら、地域の酪農の現状について調査しました。

真木 大貝ゼミでは「地域おこし」、どのように地域を盛り上げたいかを具体的に考えます。訪問先は、2年生は道内、3

年生は道外に行く感じ。2年生のときは、先生がいくつか候補を出してくれた中から話し合っていて決めました。3年生の今年は、どこのどんな地域活性化モデルが見たいかを話し合っていて決めるんですが、日本酒好きの先生の誘導もあって（笑）、酒から始まる地域活性化、というテーマで福島県に行く予定です。

住吉 去年は浦幌町を訪問しました。軽種馬産業に従事しているインド人が多い町ということで、内情をうかがってきました。

司会 では、現地調査の準備についてはどうですか？

山林 2・3年生合わせて約20人分の宿は、自分たちで探して手配するんです。去年は旅館を貸し切って、今年はホテルに泊まります。（ほかのゼミの4人から「えーっ」と驚きの声）

大貝 人数も多いし、ほかのゼミと全然違うね。

奥田 上園ゼミは、先生が手配してくれました。

嶋田 今年の上園ゼミの訪問先の浦幌町は、実は自分の地元。どうしても浦幌に学生を呼びたくて先生に頼み込んで決まったんです。だから、町とのやり取りや宿の確保も全部自分がやります！

大貝 そうかー。うちのゼミでは、役場へ挨拶に行ったときに宿泊できるところを教えてもらっただけ、今年は日程だけ示してあとは全部学生にやらせてみようかな。あと、なにか先生から指導されたことはありましたか？

奥田 岩内町での第3次産業のテーマは自分で考えましたが、外国人労働者については先生から教えてもらいました。そこから雇用形態など質問を考えていった感じです。

ただ、さまざまな事情から外国人労働者の方から直接話を聞けなかったのが、岩内町のこととして調査をまとめることができませんでした。

嶋田 豊富町のときは、班ごとに考えた質問を先生に送ってチェックしてもらい、修正していく。今年もそうする予定です。

山林 宮入ゼミも同じで、それぞれの班がテーマに沿った質問を考え、先生にチェックしてもらおう。去年はそんなに修正されなかったです。

武田 えっ、僕らは「これはいらない」「全然違う」とか言われたけど（笑）。

真木 大貝ゼミは、質問は考えていきますが、現地で実際に話を聞いてその場で考えたことを質問するべき、という感じ。

住吉 先生からは、相手が聞いてほしいと思っていることを質問しなさい、話を引き出すような質問をしなさい、と言われていきます。

大貝 先生たちは学生に、相手がわざわざ時間を割いてくれている意味をちゃんと考えてほしいんだよね。すると、その場に挑むときの姿勢が自ずと決まってくると思いますよ。

地域研修が終わってからが山場！

大貝 夏休み中に2泊や3泊で行われる地域研修では、現地で初めて聞く話とか経験することが多くて、頭がパンクしそうな状態で帰ってくる。それから記録を整理しまとめて、12月に開催する「地域研修報告会」へつなげていきます。それ以外に、各ゼミで取り組んでいることはある？

奥田 上園ゼミは、報告会のほかはゼミの中での発表、話し合いをするくらい。

山林 宮入ゼミでは後期から報告会に向け



ECON. STUDENTS



●司会
地域経済学科
大貝 健二 先生



●経済学科 3年
上園ゼミ
嶋田 諒さん



●経済学科 4年
上園ゼミ
奥田 等子さん



●地域経済学科 3年
宮入ゼミ
山林 姫実花さん



●地域経済学科 3年
宮入ゼミ
武田 陵佑さん



●地域経済学科 3年
大貝ゼミ
眞木 美怜さん



●地域経済学科 3年
大貝ゼミ
住吉 峻輔さん

てまとめと修正を繰り返します。ゼミ以外の時間でも班に分かれて活動していることが多い。基本的に2年生が内容をまとめます。

武田 ゼミの時間に2年生が報告会形式で発表して、3年生が本番でどんな質問をされるか予想しながら「それはどういうことなの？」などと厳しく質問するんです。

住吉 大貝ゼミは、学年ごとにグループになって、「SCAN(スキャン)」という道内の大学生による政策提言フォーラムにも参加します。ゼミ以外の時間もLINEや直接会って話し合っ、パワポでプレゼン資料を作ったり、先輩に質問してもらったり。もう一つの大きなイベントですね。

眞木 2年生のときは、さらにもう一つ山があったよね。研修でやったことをすべて論文にまとめるという…。

(ほかのゼミの4人が「ひー…」と絶句)

地域研修の経験や学びが 生きるとき

大貝 みんなが話してくれたように、地域研修に留まらず、報告会に向けてのプレゼン資料作成とか、先輩たちから厳しく指摘されるだとか、さまざまなことを経験してきたと思います。それらの経験が身になっている、活着ていると感じることはあるかな？

奥田 就活の際のガクチカ、志望動機などをまとめるとき、報告会でプレゼン発表したことが身になっているのかなと思う。あと、第3次産業に取り組んだことで、コンビニやスーパーで商品に「〇〇産を使用しています」とあるのを見ると、「自分たちがやっていたのはこういうことだ、こんなふうに商品化につながるんだ」と思ったりします。

嶋田 自分はずっと道東にいて、あまりほかの地域に行ったことがありませんでした。去年行った豊富町では、生活の仕方や考え方は違えども、まちを活性化させたい若者がいるのは変わらないと感じた。刺激をもらって「俺らもっと頑張らないとな」と思えたので、すごく良かったです。今年は、参加する側でありながら企画する側でもあるのでいろいろ難しい。でも、地元の浦幌

町に来てもらうからには「いいまちだったな」と言ってもらいたい。多くのことを学んで帰ってほしいので、ギッチギチのスケジュールを組んで頑張ります。

武田 もともと自分は積極的なほうではなかったんですが、地域研修で内容をまとめたり発表したりする力がついた。今のゼミでは、副ゼミ長として2年生を引っ張っていくのに経験したことが活着ていると思います。去年は3年生に頼りきりでしたが、今年はゼミ長の山林さんと自分たち主体で頑張りたい。

山林 去年行った放牧酪農の農家で、ワークライフバランスを大切にしたい働き方や、仕事に対する熱意を聞いて、この農家さんの生き方は就活やこれから働いていく上で生かせるな、参考になるなと感じた。自分もそんなふうに働きたいと思いました。あとは、卒論に向けたまとめ方や調査の仕方を学べました。

眞木 普段、大学で座って勉強しているだけでは出会わないような人たちに話を聞く経験ができることが、地域研修に行つてよ



かったと思うところです。あと、去年は質問を考えるのが難しかったのですが、相手の話を自分のこととして聞くと、疑問やもっと聞きたいポイントが出てくるとわかった。今年は、もっとガツガツ質問していきたいです。

住吉 去年は、訪問先で受け身の姿勢だったら欲しい情報はなにももらえないんだな、とすごく実感しました。今年は、質問するにも下準備していかないと話をしたいのかかわからないので、ベースをしっかり固めてから地域研修に挑みたいと思います。

大貝 地域研修は、かなりゼミのカラーが出ますね。そして得るものも多いようです。3年生は、この夏もそれぞれの訪問先で、自分たちで考えたテーマにしっかり取り組んでください！

— 12月に行われる地域研修報告会 —



この春に卒業した学生から提出された 24 本の卒業研究論文には、多様な論点がみられ、経済学部への深さが窺えました。これらのなかで内容が秀でていて評価された 5 名にたいし、去る 3 月 7 日に江川賞が授賞されました。以下が受賞論文です。

- 伊藤 昶 「斜里町における市街地形成と交通網の変遷 ―戦後を中心に―」
- 小松 直矢 「マラウイ土地政策史 ―英国保護領期から現在にかけての土地法―」
- 久野 朋哉 「予防医療対策の基準値としてのビッグマック価格の利用」
- 田中 棕 「鉄道路線の廃止がもたらす 観光客数への影響 ―北海道内の 4 路線を対象として―」
- 南保 あやか 「日本で EV 化が進まない要因分析」



卒業研究論文優秀論文「第 6 回江川賞」授賞式（3 月 7 日）。

写真左：表彰者と教員の皆さん。右から浅妻裕経済学部長、表彰者の小松直矢さん、田中棕さん、伊藤昶さん、担当教員の藤田知也准教授。写真上：卒業研究論文の総評を述べる浅妻裕経済学部長。写真他は授賞式の様子



卒業研究論文要旨集は下記 URL に掲載
<https://econ.hgu.jp/publication>

5 月 30 日の基礎ゼミナールでは、9 クラス合同で、北海学園特任教授栗山英樹先生の講演会を実施しました。「人を信じることができるようになる思考・習慣は？」という司会を担当した越後修先生からの提題に対して、まわりの意見をしっかりと聞いて、最後には自分で責任をもって決断する必要があるということを、プロ野球や WBC など世界トップクラスの野球選手たちとともに戦ってきた経験などをもとにお話いただきました。

栗山先生は 1 年生たちに、プロ野球に入って来たばかりのルーキーと君たちは同世代だと語りかけられました。そしてマイクを片手につねに学生たちの間を進んで行かれ、学生たちが口にしたちょっとした言葉にも耳を傾け、真摯に答えてくださいました。実際の日本ハムファイターズの試合映像を交えて、奇策とも思える戦術を展開できた裏には野球以外のところから吸収した知識があった

ことを披露してくださいました。そして読書などによってつねに幅の広い知見を得ようと努力することや、学び続けることが大切であると力説されました。質疑応答では、「これまで一番落ち込んだことは？ どうやってそこから抜け出せた？」といった鋭い質問も飛び出しました。プロ野球の世界に育成選手として入った当初、周りの実力と自身の現状に大きな差を感じたことを過去のつらかった経験として挙げられ、その後目標に向かってすべきことを見定めて取り組んだことを教えてくださいました。やるかやらないかの決断は自分で下すのであって、挑戦することで開ける可能性があることも熱く語っていただきました。終始和やかで、活気に満ちた講演会となりました。（北原寛子）



経済学部で開講している「北海道経済論」は、これまで複数教員によるオムニバス形式で講義を展開してきました。今年度は、初の試みとして、北海道内の中小企業経営者に、それぞれの立場から北海道経済の現状や課題、可能性について論じてもらっています。登壇者は、北海道中小企業家同友会の会員です。中小企業家同友会とは、「良い会社を作ろう、良い経営者になろう、良い経営環境をつくろう」を合言葉とする、中小企業の経営者団体です。全国に4万7,000社の会員が、そして北海道には5,700社の会員がいます。



写真：川湯ホテルプラザ代表取締役社長榎本竜太郎氏の講演と質疑応答



講義は、建設業、農業、観光関連業の3つの分野で、9名の経営者の方にご登壇して頂いています。スケジュールやテーマ等に関しては、以下の通りです。

- 1) 4月25日：地産地消の家づくり＆住まいる110番の取り組み
(カサシマ建設株式会社 代表取締役 笠島守氏)
- 2) 5月2日：女性目線を大切にする建設業
(井上技研株式会社 取締役副社長 犬嶋ユカリ氏)
- 3) 5月9日：地域課題を解決するコンテナホテル
(株式会社高橋工業 代表取締役 高橋宗靖氏)
- 4) 5月30日：多品目生産、次世代が魅力を感じる農業
(Ambitious Farm 株式会社 代表取締役 柏村章夫氏)
- 5) 6月6日：ワイナリーから地域の新しい農村文化を形成する
(有限会社山崎ワイナリー 山崎太地氏)
- 6) 6月13日：6次産業化で弾ける小麦とポップコーン
(前田農産食品株式会社 代表取締役 前田茂雄氏)
- 7) 6月27日：ジギスカンから札幌の街を見る
(株式会社ブレンドワークス 代表取締役社長 前川裕一氏)
- 8) 7月4日：川湯温泉の今とこれから
(川湯ホテルプラザ 代表取締役社長 榎本竜太郎氏)
- 9) 7月18日：「自然と遊ぶ」をモットーに
(株式会社りんゆう観光 代表取締役社長 植田拓史氏)

北海道の企業数の99.8%を占める中小企業、企業規模だけをみれば大したことはないのかもしれませんが、しかし、北海道の従業者142万2,150人のうち、120万476人(84.4%)が中小企業で働いていることを考えれば、北海道の雇用の受け皿になっていることは間違いありません。しかも、中小企業は「異質多元」と表現されるように、実に多様な事業展開を行っていることも魅力と言えます。本講義では、地域経済社会の主な担い手として、事業を通じて地域課題を解決すること、地域経済を活性化させることを目指している企業の魅力を存分にお話しして頂いています。リアクションペーパー一杯に考えたことや感想、質問を書いている受講生も多く、次年度以降も継続していきたい講義内容になっています。(大貝健二)



学生に語りかけ、対話しながら講演を進める栗山英樹先生と、熱心に聞き入る学生たち



吉井 哲 経済学科教授

よいし さとし

<略歴>

札幌市出身

北海道大学大学院経済学研究科博士課程修了 博士(経済学)

専門は進化経済学、経済学史

主な研究業績・著書

A New Construction of Ricardian Theory of International Values, Springer, 2017. (共著)

『経済学を再建するー進化経済学会と古典派価値論ー』中央大学出版部, 2014. (共著)

"A Study on Changes in the Composition of Output: An Alternative Consumption Theory in Terms of Multiple-self," *Evolutionary and Institutional Economics Review*, Vol.4, No.1, 2007.

●写真について

上右: トニー・ローソンと私。下左: ケンブリッジ大学で買ったケインズマグカップ(現在も愛用中)。下右: J.M.ケインズとJ.ロビンソン@ケンブリッジ大学

トニー・ローソンの著書▶『経済学と実在』トニー・ローソン著 日本評論社, 2003年。



私の履歴書

経済学を本質から問い直す

大学に入るまで

子供の頃は、小学生から始めたサッカー一色の生活でした。中学生の時には札幌市で優勝もしましたし、高校生の頃は北海道の優秀選手でした。北海高校に勝ったことは良い思い出です。勉強の面では、倫理や哲学に興味を抱いていました。人生の色々な問いに興味があって、プラトン『ソクラテスの弁明』やデカルト『方法序説』などを初めて読んだのも高校生でした。当時は商社マンになって世界中を飛び回りたいなんていう、漠然とした、そしてありきたりな将来像を描いていました。母親に相談したところ、経済学部を勧められたのが進路選択のきっかけです。また、当時、山下和美さんの『天才柳沢教授の生活』という漫画(ドラマ化もされています)が流行っていました。この漫画の主人公が経済学者(小樽商科大学図書館の館長も務めた古瀬大六教授がモデル)で、一つ一つの事象を経済学者のやり方で論理的に考察していく過程が大変ユーモラスで面白く、かつハートウォーミングな内容でした。そのようなわけで、経済学に興味を持った私は北海道

大学経済学部へ進学することに決めます。

ラディカルな恩師

「世の中の真理に近づけるのでは？」などと期待を込めて北大に入学しましたが、経済学が前提条件として置く仮定やモデルが非現実的に感じて、つまらない学問だと思いました。また、説明できる事象に限界があることも不満でした。もちろん、それは一知半解に基づく若者特有の評価だったと思います。このように大学入学後全くやる気を失った私ですが、2年生からの所属ゼミは選ばなければなりません。あまり考えず、教養の講義にいつもニコニコしながら自転車でやってくる優しいような先生に決めます。本当に、ただそれだけの理由でした。ごめんなさい。

しかしながら、この出会いが大変大きなものとなります。ゼミ面接の際に、今まで経済学に対してモヤモヤしていた事を経済学者に思い切ってぶつけてみたところ、思いの外共感してもらえたのです。今思うと当然なのですが、その先生は東京大学出身で、近代経済学とマルクス経済学の両方のゼミに参加していたという変わった方でし



035 OB訪問 働きマン

学内の公務員講座を受講し、国家公務員に

国土交通省

運輸安全委員会 総務課給与係 主任

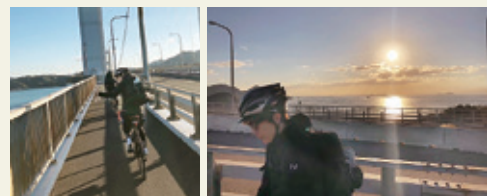
永井 宏明さん

ながい ひろあき

●経済学部と教職課程、両方の勉強を全力で

「せっかく大学に入ったからには、学べることは何でも学ぼう」の精神で、学部での講義のほか、高校の地理歴史の教職課程科目を取り、特に1~2年のころは講義がみっちり忙しい学生生活でした。単位数が多くスケジュール管理が大変でしたが、現在の業務が比較的マルチタスクなので、今ふり返ってみると少し役立っているかもしれません。また、職場で業務を教えるときにも、教育実習の経験が生きていると思います。

高校まではある程度決まったレールの上を進むイメージでしたが、大学生になって授業を選択する自由度が広がり、自分が興味のあることに取り組みしました。学部の卒業論文は、ゼミの古林教授と話し合うなかで植物工場の経済に与える影響に関心を持ち、植物工場について調査・研究しました。大学は、たくさんの学びや経験を自分の選択でつかみ取っていく場所だと感じます。



写真上3点: 大学の卒業旅行で。写真下: 友人たちと行ったスキー旅行(左から2人目が永井さん)

た。そして、教員になってからは経済学をラディカルに（本質的に）見つめ直し、学問横断的に新しく作り直そうとしている先生であったのです。元来哲学が好きで、物事をラディカルに考える私にはピッタリでした。「欧米から学問を取り入れるだけではなく、これからは新しい経済学を日本から輸出しなければならない！」と強く主張していたのを今でもはっきりと覚えています。この出会いのおかげで、ゼミだけは頑張ろうと思い色々な文献を読みました。3年生になると将来選択（就活）が迫ってきます。ビジネスの世界ではなく「より自由で広い世界に身を置きたいな」と思うようになりました。「学問は世界中の人たちのみならず、歴史上の人たちとも自由に競争する広い世界だ！人間の脳内は無限の広さだ！」などと学問的魅力に目覚め、最終的に大学院への進学を決意しました。恩師が学問的魅力を伝えるのが上手な人物であったことも大きな要因ですが。

ケンブリッジ大学での出会い

大学院に進学すると研究テーマを決めなくてはなりませんが、生半可なテーマでは



指導教授のラディカルな視点からダメ出しを受けます。幸運にも修士課程時に英国ケンブリッジ大学に滞在し、世界中の研究者と交流する機会を得ました。特に刺激を受けたのが、批判的实在論（Critical Realism）の研究会でした。ロイ・パスカーが1970年代に提唱した批判的实在論とは、経験主義を前提とする実証主義的な科学哲学の行き詰まりを乗り越えようとする哲学理論です。欧米諸国の社会科学、人間科学分野の研究者たちの間に影響力を広げてきています。経験主義的科学観では、経験されたものだけが認識対象であり、科学とは経験されたもののなかに法則的な連関を見いだすものとなります。しかし、経験されたものはバラバラな現象にすぎず、普遍的法則は経験的な規則性以上のものではありません。経験される現象の背後にある生成メカニズムが特定されなければ自然必然性（自然の運動や現象が、あらかじめ一定の原因によって一定の方向に決定されていること）は論証されえないのです。パスカーとも議論しましたし、批判的实在論を経済学に適用し、進化概念から経済学の再考を試みているトニー・ローソンとも交流しました。

このようなケンブリッジ大学での知的交流から刺激を受け、研究テーマはおのずと経済学を新たな科学哲学から本質的に問い直すことに決めました。具体的には、人々は性質も嗜好もバラバラで、いつも完璧に計算して行動しているわけでもないのに、

社会はなぜある一定の範囲内で破綻することなく存続しているのか？ということです。社会の定常性という考え方は、実は古くからケンブリッジ学派で考察されていたのですが、それに異質的な主体の行動を加えるものでした。

経済学は何をすべきか？

生命科学の進歩は著しいですが、例えば、害虫に強い遺伝子組み換え食品が技術的に開発されたからといって、科学者が遺伝子組み換え食品を必ず食べなさいと言いつつ出したら、価値観の押し付けとみなさんと思うはずです。経済学も同様で、ある目的に対してその達成手段を助言することは適切ですが、人々が目指すべき目的自体を経済学が押し付けるのは変ですよ。それゆえ、経済学には人の良し悪しの判断（価値自由）まで決める権利はありません。しかし、過度な経済成長が自然環境を破壊した場合、それに対して何も批評を加えなかったら、経済学者として社会的責任を果たしていると言えず、良い姿勢ではありません。そのためにも、経験される現象の背後にある生成メカニズムこそが特定されなければならない、自然必然性の論証が重要になるのです。また生物界同様、社会の変化には偶然性が伴います。企業間の技術ネットワークの進展などはその例です。それゆえ、生物進化の概念も重要になります。このような理由から、私は自然必然性と偶然性を経済学の中で考察する進化経済学という分野を現在研究しているのです。

●人のために働く国家公務員を目指して

大学3年生の頃、将来を考えたときに民間企業ではなく公務に関わる仕事に就こうと思いました。その際、教職課程は受講中でしたが、国家公務員になろうと思い、試験勉強を開始しました。学内の公務員講座を受講しましたが、講義が充実していて、学部のキャリアセンターでは面接指導もあって非常に助かりました。北海学園大学の公務員試験対策は、学外の予備校には通う必要がないほど万全で、他の大学に比べても整っていると思います。

もちろん自分でも試験勉強はコツコツ続けました。国家公務員の試験から内定までは、民間企業に比べて遅い時期になるため、民間を志望していた友人たちがどんどん内定をもらっている時期に勉強を続けていたとき、このままで本当に大丈夫なのだろうか考える日がありました。幸い、私は周りに公務員志望の仲間がいたので、そこまで深刻なダメージにはなりませんでした。多少なりとも不安や焦りはありました。

その影響もあってか1次試験が終わって結果が出るまでの間、民間企業の合同説明会にも参加しました。結果的には1次試験に合格したため、民間企業の面接を受けることなく、官庁別の面接に進むことができました。

●組織を支える事務官から、現場の事故調査官にも

公務員の就活では、1次試験合格後、自分の希望する官庁へ訪問する「官庁訪問」を行います。私の所属する運輸安全委員会は知名度が低い組織ですが、航空、鉄道、船舶の事故が起きた際、事故原因を調査して報告書にまとめ、事故の再発防止と運輸の安全性向上

を目指す国土交通省の外局です。社会の重要な役目を担う「公務員らしい仕事」ができると思い、入局を決意しました。

現在は事務官として総務課に属し、職員の給与に関するさまざまな業務を行っています。函館で勤務していた際は、旅費や契約関係などの事故調査をする調査官を支える裏方として働いていました。調査にも補助として同行し、実際の事故調査に触れる機会もありました。昨年、東京へ異動し、給与係として給与支給に関する業務に携わりました。今年は所属2年目となりますが、給与の中でも俸給決定や人員管理の業務にシフトし、仕事の幅が広がりました。運輸安全委員会はあまり大きな組織ではないため、1人1人の裁量が大きく、全体を見渡した働き方ができるところが魅力の一つです。また、現在は事務官であっても、今後研修などでいろいろな知識を習得し、多様な業務経験を積んだ上で、事故調査官に登用される道があることも、運輸安全委員会ならではの特徵です。どの分野かはわかりませんが、いずれは国民の生活に欠かせない運輸の安全を支える調査官の仕事ができればと思います。



●1997年函館市生まれ
北海道大麻高等学校卒業、2020年3月に本学経済学部経済学科を卒業、同年4月に国土交通省運輸安全委員会に入局、函館事務所を経て、2024年4月から東京本部総務課給与係に兼任、今年4月から現職。

みなさんの先輩たちは、どのような進路を選び、どのような就職活動をしているのでしょうか。ここでは、経済学部の就職状況について、最近 5 年間のデータをもとに紹介していきます。

写真：2025 年 2 月 26 日 学内合同企業セミナー

◆ 求人数は増加傾向 ◆

まずは大学全体への求人数の推移を見てみましょう（表 1）。2021 年度はコロナ禍の影響で若干減少しましたが、その後は右肩上がりに回復しています。特に道外企業からの求人が大きく伸びており、2024 年度は 12,000 件を超えました。全体的に企業の採用意欲が高まっていることがうかがえます。*表 1

◆ 内定率は高水準 ◆

では、経済学部の内定率はどうでしょうか。表 2 は経済学部の 1 部と 2 部別で内定率の推移をまとめたものです。こちらでもコロナ禍の影響が見られますが、1 部 2 部共に 2024 年度の内定率は上昇しており、特に 1 部においては 97% と非常に高くなっています。2 部も回復しつつあり、2024 年度は 87% となっています。*表 2

◆ 先輩たちはどんな業種に？ ◆

次に、内定先の業種を見てみましょう。1 部（表 3）では「公務員」が常にトップで、毎年約 20 ～ 24% の学生が公務員としての道を選んでいます。次いで「サービス業」、「金融業」、「小売業」などが続きます。一方、2 部（表 4）では「サービス業」が最も高い比率を占め、2024 年度には 30% を超えています。1 部同様、「公務員」

も安定的に上位を占めていることが分かります。これらのことから、経済学部生の進路は多様であるけれども、「公務員」と「サービス業」の内定比率の高さが経済学部の特徴と言えるかもしれません。

*表 3・4

◆ 公務員試験は多様 ◆

公務員と言っても職種（試験）は様々あります。先輩達はどういう試験に合格し公務員となっていたのでしょうか。表 5 は経済学部の公務員試験合格数の推移をまとめたものです。毎年、様々な試験において合格者が出ていますが、「国家公務員（一般職）」、「国税専門官」、「北海道職員（一般行政）」、「札幌市職員（行政）」、「その他市町村」において安定的に多くの合格者を出しています。公務員試験合格数では、本学法学部が最も多いのですが、経済学部はそれに次いで、毎年 2 番目に多くの合格者を輩出しています。*表 5

大学生活の中で、将来の進路について考える機会はこれからますます増えていきます。もちろん、ここで紹介した先輩たちの進路と同じ道を押しつけるつもりはありません。ただ、これらのデータが、みなさん自身の就職活動の計画を立てるうえで、参考になれば幸いです。（キャリア支援委員 歌代崇史）

表 1 本学への求人情数 / 本社所在地別
[単位：件]

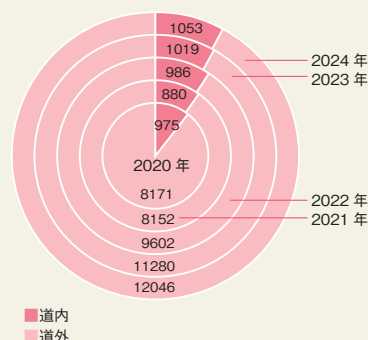


表 2 本学部の内定率 [単位：%]

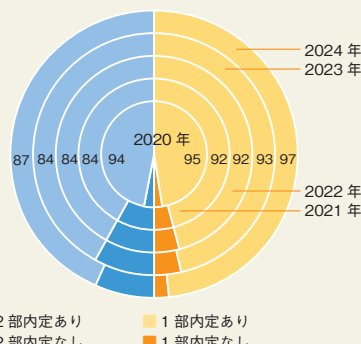


表 5 本学部の公務員試験合格者数 [単位：延人数]
※ 1 部・2 部合算
※ 1 名で 2 つ合格した場合は 2 と数える

表 3 本学部 1 部の内定業種別比率（上位 6 業種）

業種	2019	2020	2021	2022	2023	2024
公務員	20	21	21	22	19	24
サービス業	17	16	19	15	17	19
金融業	16	14	12	11	11	14
小売業	10	9	16	13	11	13
運輸・通信業	12	14	12	14	15	11
卸売業	9	10	10	11	12	10

[単位：%]

表 4 本学部 2 部の内定業種別比率（上位 6 業種）

業種	2019	2020	2021	2022	2023	2024
サービス業	20	21	25	28	25	33
公務員	14	12	15	20	14	19
運輸・通信業	12	14	6	15	16	9
金融業	7	9	2	12	8	9
卸売業	13	13	10	9	15	7
小売業	14	13	15	6	8	7

[単位：%]

試験	2020	2021	2022	2023	2024
国家公務員総合職	2	0	0	0	0
国家公務員一般職	15	20	17	20	19
国税専門官	9	8	7	4	10
財務専門官	1	1	0	1	0
裁判所職員一般職	0	0	5	3	10
自衛隊一般書候補生	0	0	1	1	1
北海道職員					
一般行政	13	17	21	10	8
教育行政	0	1	3	0	2
警察行政	4	2	2	2	2
その他都道府県					
一般行政	0	0	0	0	1
北海道警察官	7	14	5	3	3
警視庁警察官	0	1	0	1	0
東京消防庁	1	0	0	0	1
札幌市職員					
行政	8	4	7	10	17
学校事務	0	1	0	0	0
消防吏員	0	1	1	0	2
その他市町村	20	24	21	16	13
国立大学等法人職員	6	0	3	2	1
公立学校教員	0	1	1	0	4

